

資格課程委員会・司書課程

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

(理念・目的等)

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

★現状(評価)

・現状

(司書課程)司書課程は、図書館法で定められた、司書を養成する課程である。すなわち、司書課程の目的は、司書として必要な知識・技能を修得する人材養成である。司書課程は、図書館施行規則において定められた科目を修得するとともに、学部等で学んだ専門知識を生かし、図書館で司書として、資料の収集、整理、一般市民の利用者の利用に供することに従事する知識とスキルを持った学生を養成することが目標である。

(司書課程)司書課程室を設け、図書館情報学関連の資料を集め、受講生に学びの場を提供している。加えて大学ならびに大学図書館の理解と支援のもとに演習科目(必修)である情報検索演習において、外部の書誌データベース等を導入した授業を実現し、受講生の情報検索スキルの修得の充実を図っている。大学図書館は、演習科目にとどまらず、講義面においても、専門家を派遣し、受講生に対しその専門性を発揮して、司書養成に寄与している。

・長所

(司書課程)大学図書館の協力を得て、図書及び図書館の文化史にかかわる貴重書(複製も含む)を収集し、公開展示し、受講生のみならず、全学生に幅広い教養を培う手段の一つとなっている。

・問題点

(司書課程)司書職採用における門戸の狭隘状況は、資格付与と就職が結びつかず、大きな矛盾を抱えている状況である。このことがまた、資格のみを求める受講生を生み出し、高度な専門職教育を阻む状況を生み出していることが問題である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(司書課程)図書館の社会的意義を受講生に知らしめ、図書館サービスに対する支援者ならびに司書の専門性への理解者を生み、近い将来、行政の図書館政策を変革する力となるよう、司書養成課程を展開している。

(理念・目的等の検証)

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

★現状(評価)

・現状

(司書課程)学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定科目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書課程としての独自なとりくみは、図書館特論における自由選択科目をそろえていることである。加えて、特別講義の制度により、図書館関係の専門家を招き、通常の授業で扱うことの少ない内容を補っている。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

(大学・学部における特色ある取組)

★現状(評価)

・現状

(司書課程) 図書ならびに図書館の文化史について、「図書及び図書館史」の授業において扱うに際して、大学図書館所蔵の貴重書等(複製を含む)を展示する機会を設け、受講生に人類の文化遺産に触れ、考える機会を設けている。これは、本学図書館が所蔵する貴重書等を、受講生のみならず、本学学生、教職員ならびに本学を訪れる人々にも広く公開する機会となっている。

・長所

(司書課程) 多くの受講生ならびに本学関係者は本学図書館の所蔵資料に関して、誇りを抱く機会ともなり、また、大学および大学図書館の財産を公開することは、社会への貢献の一助ともなり、大きな長所である。

・問題点

(司書課程) 所蔵品のなかには複製品も多く、できるかぎり、オリジナルを揃えていくことが課題である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

予算等にも限りがあり、また、オリジナルも市場に出る機会は少なくなっているが、機会を見つけて、できる限り、オリジナルを所蔵できるよう、努める。
図書委員会などに働きかけ、蔵書の充実を図ってもらうよう、説得する。

2 教育研究組織

★目的・目標

(司書課程) 司書課程は、専門職教育として、学部等で学んだ専門を生かし、図書館で司書として、図書館サービスと資料管理に従事する知識とスキルを持った学生を育てることが目標である。このため、多様な専門を持つ学生に対応することができるような教育を行う組織作りが必要となる。

(教育研究組織)

A群・当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

★現状(評価)

・現状

(司書課程) 専任教員2名、兼任講師2名、兼任講師12名である。和泉地区、生田地区での開講科目を増加したため、専任教員の負担が増加している。

・長所

・問題点

(司書課程) 2007年度後期からのメディア授業の開講に向けて、2006年度後期は、コンテンツ作成に多大の労力が必要となり、専任教員2名に大きな負担となった。2008年度に予定されているメディア授業の全面的開講は、専任教員2名体制では不可能な状況である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(司書課程) メディア授業の全面的開講には、専任教員の1名増が必要であり、また、各地区の対面授業の持ちコマ数の見直しを検討していきたい。

3 学士課程の教育内容・方法等

(1)教育課程等

(学部・学科等の教育課程)

★目的・目標

(司書課程) 司書課程は、図書館法で定められた司書を養成する課程である。すなわち、司書課程の目的は、司書として必要な知識・スキルを修得する人材養成である。司書課程は、図書館施行規則において定められた科目を修得するとともに、学部等で学んだ専門知識を生かし、図書館で司書として、資料の収集、整理、人々の利用に供することに従事する知識とスキルを持った学生を育てることが目標である。

A群・学部・学科等の教育課程と各学部・学科等の理念・目的並びに学校教育法第52条、大学設置基準第19条との関連

A群・学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、学士課程としてのカリキュラムの体系性

A群・教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ

B群・「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法第52条との適合性

B群・一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性

B群・外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性

B群・教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性

B群・基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況

C群・グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ

C群・起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ

C群・学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況

★現状(評価)

・現状

(司書課程) 図書館サービスが全ての人々に平等に提供されるということをコンセプトに、「共生」ということを考える機会としている。

・長所

図書館情報学という分野を超えて、「共に生きる」という命題を扱っている。

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(履修科目の区分)

★目的・目標

B群・カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性
★現状(評価)
・現状 (司書課程)資格取得のための課程であり、図書館法で定められた、司書を養成する課程である。すなわち、司書課程の目的は、司書として必要な知識とスキルを修得する人材養成である。司書課程は、図書館施行規則において定められた科目を修得するとともに、学部等で学んだ専門知識を生かし、図書館で司書として、資料の収集、整理、人々の利用に供することに従事する知識とスキルを持った学生を育てることが目標である。本学の独自性としては、通常、自由選択科目の一つである「図書及び図書館史」を必修科目とし、図書及び図書館の文化史を司書の教養として、力点を置いたカリキュラム編成を実施している点にある。 ・長所 (司書課程)法定科目において、選択科目は2科目のため、他大学では、2科目しか設置していない例が多いが、4科目を設置し、自由選択としている点である。演習科目においては、本学の演習科目に準じ、25－30名に制限し、他大学(40名－100名以上のところもある)に比して、きめ細かな指導をしている。 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(開設授業科目における専・兼比率等)
★目的・目標
B群・全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合 B群・兼任教員等の教育課程への関与の状況
★現状(評価)
・現状 (司書課程)必修12科目、選択4科目(うち、必修選択2科目)のうち9科目を専任教員が担当(うち必修1科目は他の資格課程科目の専任担当)。兼任講師2名が選択科目を担当。ほかに兼任講師が11名おり、必修科目を担当している。 ・長所 兼任講師に各科目の専門家である豊富な人材を揃えていること。 ・問題点 他大学に比べ、講師陣は豊富であるが、受講生数を限定していない(大学によっては、受講希望者から試験等により、選考し、受講生を絞っている)ため、受講生数が100人以上にのぼり、講義形式が主となり、多様な教育手法を用いることが困難である。資料組織演習という科目は、本来、分類と目録に分け、各半期にすべきであるが、開設当初の諸事情のため、半期で両主題を実施している。今後、分ける必要がある。
★改善方策
・問題点に対する改善方針 資料組織演習については、2007年度に改訂する。
(社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮)
★目的・目標
C群・社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮

★現状(評価)
・現状 (司書課程)近年, 極少数ではあるが, 図書館の現場で働いており, 司書の資格を持っていない社会人が受講している。学部授業ではないが, 司書講習を実施していることにより, 夏期講習に多くの社会人が参加しており, 社会人への教育の一端を講習において担っている。 ・長所 既に職場を持つ現職者(嘱託, 非常勤も含む)の教育は, 資格のみを求める受講生と異なり, 専門職教育の一端として, 重要である。 ・問題点 未だ現場経験を持たない学生と現職者への同時教育は困難な面を持つ。
★改善方策
・問題点に対する改善方針 現場で直面する問題などを, 学生に投げかけ, 討論を呼び起こすことにより, 双方にとって, 実のある学習にしていく。
(生涯学習への対応)
★目的・目標
B群・生涯学習への対応とそのための措置の適切性, 妥当性
★現状(評価)
・現状 (司書課程)近年, 中・高齢者の受講が少数ながらみられる。図書館でのボランティア希望者などが主であるように思われる。ユビキタスカレッジ開講にともない, さらに増加する傾向にあると思われる。 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(正課外教育)
★目的・目標
(司書課程) 文部科学省の委嘱を受けて, 夏期講習を実施している。現職者教育が最大の目的である。同時に, 資格取得希望者に図書館の存在意義を広く知らしめたいということも目標のひとつである。
C群・正課外教育の充実度
★現状(評価)
・現状 (司書課程) 司書資格取得希望の社会人のために, 文部科学省の委嘱を受けて, 夏期講習を実施している。専任教員をはじめとして, 司書課程の兼任講師の多くが担当している。

・長所 講師陣容が豊富であり、演習科目に関しても人数および内容の充実が好評である。
・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)
★目的・目標
B群・教育上の効果を測定するための方法の適切性 B群・教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況 B群・教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況 B群・卒業生の進路状況 C群・教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況 C群・国際的、国内的に注目され評価されるような人材の輩出状況
★現状(評価)
・現状 (司書課程) 学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定科目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書課程としての独自なとりくみは、図書館特論という自由選択科目をそろえていることである。加えて、特別講義の制度により、図書館関係の専門家を招き、通常の授業で扱うことの少ない内容を補っている。 卒業生の進路については、地方自治体における司書採用が減少していることから、他大学も含め、困難な状況である。しかし、そのような状況にありながら、本学では都道府県立図書館や政令指定都市立図書館での採用がみられ、健闘している。さらに、国立大学法人大学図書館への就職もあり、極少数ではあるが、司書職に就いている。加えて、非常勤や嘱託での採用があるが、このような不安定な身分での採用が今後増えていくものとみられ、進路指導に当り、苦慮している。 ・長所 国立大学法人の大学図書館に合格した卒業生が、後輩のため、自主的に月に一度、就職のための勉強会を開いている。この会から巣立ち、無事就職したものもあり、この勉強会の存在価値は高い。 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(厳格な成績評価の仕組み)
★目的・目標

A群・履修科目登録の上限設定とその運用の適切性 A群・成績評価法, 成績評価基準の適切性 B群・厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況 B群・各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性 C群・学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況
★現状(評価)
・現状 (司書課程)過去50点が大学の設けた合格ラインであったものが60点となり, 厳正な評価がより実施しやすくなった。 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(履修指導)
★目的・目標
A群・学生に対する履修指導の適切性 B群・オフィスアワーの制度化の状況 B群・留年者に対する教育上の配慮措置の適切性 C群・学習支援(アカデミック・ガイダンス)を恒常的に行うアドバイザー制度の導入状況 C群・科目等履修生, 聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性
★現状(評価)
・現状 (司書課程)駿河台校舎では, 司書課程室配属の嘱託職員が週5日おり, 履修相談や指導に当たっているほか, 専任教員が週1回, 1時間, 在室して, オフィスアワーとしている。和泉校舎, 生田校舎では学習支援室, 資格課程分室に資格課程全体の相談に対応する組み立てがある。また, 2名の TA が司書課程室に各週6時間程度, 在室し, 受講生からの問い合わせや, 司書課程室の資料整理, 就職情報の収集と提供等の諸業務にあたっている。さらに, TA は, 演習科目における授業支援にもあたっている。 ・長所 嘱託職員は, 従来卒業生で, 有資格者を配属しているため, 履修相談, 進路相談などに力を発揮している。TA が演習科目の授業支援にあたることで, より円滑な授業運営が可能となった。また, TA の司書課程室の配置により, 司書課程室の開室時間が大幅に延長され, 受講生に大きな便宜を与えている。 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(教育改善への組織的な取り組み)
★目的・目標

A群・学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性
A群・シラバスの作成と活用状況
A群・学生による授業評価の活用状況
B群・FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性
C群・FDの継続的实施を図る方途の適切性
C群・学生満足度調査の導入状況
C群・卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
C群・雇用主による卒業生の実績を評価させる仕組みの導入状況
C群・教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性

★現状(評価)

・現状

(司書課程) 学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定課目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書課程としての独自なとりくみは、図書館特論における自由選択科目をそろえていることである。加えて、特別講義の制度により、図書館関係の専門家を招き、通常の授業で扱うことの少ない内容を補っている。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(授業形態と授業方法の関係)

★目的・目標

B群・授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性
B群・マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性
B群・「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

★現状(評価)

・現状

(司書課程) 講義科目、実習ともに、図書館の現場を知らしめる必要から、多様な教材メディアを使った代理体験を採り入れた授業運営を行ってきた。今後ともこの方向は強化されることになろう。特にユビキタスカレッジ開講となれば、オンデマンド型のメディア活用は必須である。

・長所

・問題点

(司書課程) 現状の講義や実習での映像利用は著作権上問題はないようだが、オンデマンド型の授業の場合、現在利用している映像について著作権問題をクリアする必要があるが生じる。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(4) 通信制大学・学部等

★目的・目標・教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性
A群・通信制の大学・学部における、実施している教育の内容、方法、単位認定、学位授与の適切性とそのための条件整備の適切性
★現状(評価)
・現状 (司書課程)2008年度よりのメディア授業の開始を考え、2006年度中には司書科目5科目のコンテンツの作成にあたった。 ・長所 ・問題点 (司書課程)メディア授業を司書科目全体に展開するには、専任教員の1名増が必要である。
★改善方策
・問題点に対する改善方針

4 学生の受け入れ

★目的・目標
(科目等履修生・聴講生等)
C群・科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性
★現状(評価)
・現状 (司書課程)科目等履修生について、本学卒業者以外も受け入れている。 ・長所 現職者教育を進めていくうえで、司書課程にとって、意義がある。 ・問題点 (司書課程)メディア授業の導入により、科目等履修生の多くはメディア授業に応募するのではないかと思われる。
★改善方策
・問題点に対する改善方針

5 教員組織

★目的・目標
(教員組織)

A群・学部・学科等の理念・目的並びに教育課程の種類・性格，学生数との関係における当該学部の教員組織の適切性
A群・主要な授業科目への専任教員の配置状況
A群・教員組織における専任，兼任の比率の適切性
A群・教員組織の年齢構成の適切性
B群・教育課程編成の目的を具体的に実現するための教員間における連絡調整の状況とその妥当性
C群・教員組織における社会人の受け入れ状況
C群・教員組織における外国人研究者の受け入れ状況
C群・教員組織における女性教員の占める割合

★現状(評価)

・現状
(司書課程)専任教員2名，兼任講師4名のほか兼任講師 10 名である。メディア授業の 2008 年度の全面的な開始を可能にするには，2007 年度に専任教員1名を増員することが必要である。

長所
(司書課程)兼任講師に専門分野の多様性がみられること。特別講義における特殊分野の講義が受講生に好評であること。

問題点
(司書課程)メディア授業の全面的開講のためには，コンテンツ作成に関する膨大な業務をこなす必要があり，現状の専任教員2名体制では対応できない。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(教育研究支援職員)

A群・実験・実習を伴う教育，外国語教育，情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性
B群・教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性
C群・ティーチング・アシスタントの制度化の状況とその活用の適切性

★現状(評価)

・現状
(司書課程)駿河台校舎では，司書課程室配属の嘱託職員が週5日おり，履修相談や指導に当たっているほか，専任教員が在室して，オフィスアワーとしている。また，TA2名が加わり，司書課程室の開室時間が大幅に延長された。和泉校舎，生田校舎では学習支援室，資格課程分室に資格課程全体の相談に対応する組み立てがある。

・長所
嘱託職員は，従来卒業生で，有資格者を配属しているため，履修相談，進路相談などに力を発揮している。また，TA は司書課程修了者であることから，現受講生への履修相談に貢献している。

・問題点
(司書課程)司書課程室配置の嘱託は，その業務内容，特に对学生の指導を含む対応の責任から言えば，他の簡易な事務の短期嘱託と同じ待遇であることには問題がある。待遇の改善を求めたい。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

6 研究活動と研究環境

★目的・目標

(1) 研究活動

(研究活動)

- A群・論文等研究成果の発表状況
- C群・国内外の学会での活動状況
- C群・当該学部として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- C群・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

★現状(評価)

- ・現状
(司書課程)図書館情報学の学会は、研究者も少なく、専門学会誌も少ないのが現状であるが、中心的な学会である日本図書館情報学会の活動に専任教員が役員として参画している。また、それぞれの教員は、日本情報メディア学会、日本図書館協会、日本図書館研究会、日本図書館文化史研究会等の役員を歴任し、関連学会における活動も続けている。
科研費等の学外の研究助成についても学外研究者と共同で応募し、研究成果も出している。

- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

(教育研究組織単位間の研究上の連携)

- A群・附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係
- C群・大学共同利用機関、学内共同利用施設等とこれが置かれる大学・大学院との関係

★現状(評価)

- ・現状
(司書課程)大学図書館とは実務者の授業担当などを通じて協力関係にある。これを図書館学研究にまで拡大する方向を模索したい。

- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

(2) 研究環境

7 施設・設備等

★目的・目標

(施設・設備等の整備) A群・大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 B群・教育の用に供する情報処理機器などの配備状況 C群・社会へ開放される施設・設備の整備状況 C群・記念施設・保存建物の保存・活用の状況
★現状(評価) ・現状 ・長所 (司書課程)大学図書館との協力関係により、情報検索演習における外部データベースの利用が可能となり、より有効な演習が可能となった。 ・問題点
★改善方策 ・問題点に対する改善方針

8 図書館および図書・電子媒体等

★目的・目標
(図書、図書館の整備) A群・図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性 A群・図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性 A群・学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性 A群・図書館の地域への開放の状況
★現状(評価) ・現状 (司書課程)研究図書や一般図書に関しては、図書館情報学を重視している図書館として、収集に力を入れているため、それほど問題はない。が、図書の文化史を考える上での内外の貴重書(オリジナル)がさらに必要である。 ・長所 図書の文化史展を数年来実施し、大学図書館所蔵の貴重書等を公開展示している。 ・問題点 (司書課程)外部データベースの利用に際して、人文科学系の利用が制限されており、特に研究者として、制約があり、改善が望まれる。
★改善方策 ・問題点に対する改善方針 貴重書の購入に関しては、図書委員会などを通じて働きかけている。